

# CBC NEWS LETTER

Vol.1, No.2, Feb.2001

小樽商科大学ビジネス創造センター



ニューズレター

[No.2]

## INDEX

1. CBC教授就任ごあいさつ
2. CBCの新しいオフィス
3. 平成12年度学生懸賞論文審査結果
4. CBC登録研究会案内
5. CBC主要日誌
6. 投稿案内

1

## CBC教授就任ごあいさつ

CBC教授 下川 哲 央

21世紀の開幕とともに赴任のために訪れた小樽商科大学は、前夜からの新雪による明るいコントラストと威厳にみちた輝きのシルエットで私を迎えてくれました。このたび卒業から35年、小樽を離れて30年ぶりに、再び私が、母校とする小樽商科大学に設けられたビジネス創造センター(CBC)教授に選任され、ここに就任する巡り合わせを得ましたことを謹んで関係各位にご挨拶させて戴くことを無上の光栄といたします。

私は、これまでの職業人生の大半を銀行エコノミストとして過ごしてまいりました。直近8年ほどは自らが創設に携わった銀行シンクタンクで経営コンサルも手掛ける組織に身を置いてまいりました。そこで一貫して考え、提言等をしてきたことは、この愛すべき郷土・北海道の経済社会を如何にマクロ・ミクロ両面から活性化するかということでありました。ミクロは企業や事業の活性化であり、マクロは地域行政を含めた地域経済システム強化のあり方です。

世界経済の地殻変動とともに日本経済も「21世紀型経済」の構築に向けた抜本的な“革新”が急がれておりますが、現実にはグローバリゼーションや情報技術(IT)をはじめとする新技術等を起爆に、フロンティアが次々と現れ、新たな市場が誕生しつつあるのが実情であろうと考えます。

翻って北海道内を眺めると、IT関連や流通分野などを中心に、やはり新しい競争力形成への新陳代謝の芽が現れつつあるばかりでなく、「優れたモノづくり」の観点から「コラボほっかいどう」、「産学共同研究センター」、生命工学分野の新会社、「TLO」等の産学官連携組織もスタートしております。本学のCBCは、さらにそれらや新しい事業創造・企業化支援等を“社会科学的領域”から連携・サポートするために、社会科学系国立大学で初の機能として活動を開始しております。本学が別途、サテライト・オフィス(札幌市)で実施している社会人向け大学院講座も同様の趣旨のものであり、これらの諸活動を通して、やがて新しい時代を担う「市場経済へのチャレンジャーたち」が数多く誕生することを期待するものであります。

微力ながら私も、官学の立場からこうしたニュー・フロンティアへの挑戦に参画し、産学官のオープンなネットワーク構築を目指しつつ、新たな時代を本道経済・新生の一大勝機とするために、学内外の関係者のみなさまと共に、チャレンジングな職務の一翼を担う決意を固めております。

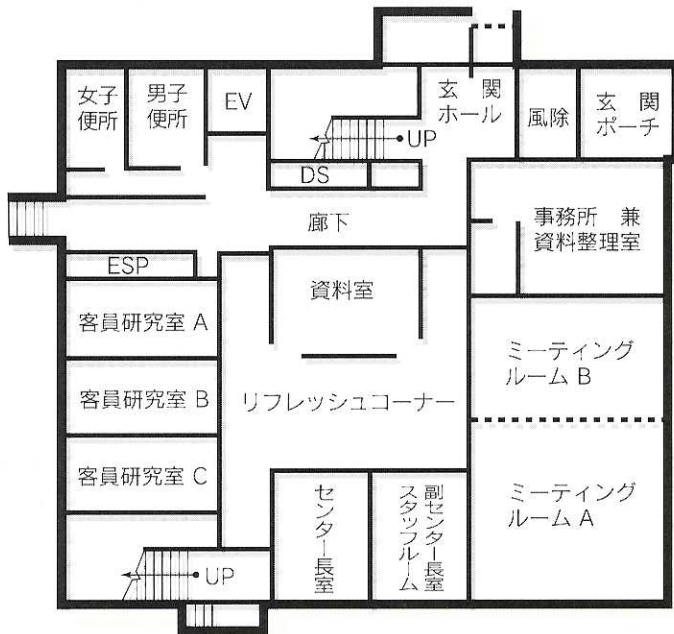
各位のご協力と忌憚のないご指導・ご鞭撻を重ねてお願い申し上げ、就任のご挨拶とさせていただきます。



2

## CBCの新しいオフィス [総務部]

CBCは平成13年2月22日に2号館1階の新しいオフィスに移転しました。新しいオフィスの平面図は下のようです。



3

## 平成12年度学生懸賞論文審査結果 [研究部]

■大学院生

●3等 (賞金6万円)

橋本 孝夫 (修士2年) 地方公務員労働者の労働条件決定システムの法的研究

●佳作 (賞金2万円)

宇 芳 (修士2年) 中国医療制度改革についての構想

■学部生

●2等 (賞金10万円)

岩本 譲 (3年) ロングセラーの規定因

松尾ゼミナール3年 (代表・松崎友美) 航空会社選択の決定因とマイレージプログラムの位置づけ

●3等 (賞金6万円)

真鍋かおり (4年) Invisible Model Minority -Contemporary Issues of Asian Americans-

## ●佳作(賞金2万円)

- 笹村 寛之(4年) A Prospect of Sports in Japan  
 加藤 陽介(4年) E V Aの有用性についての理論的検証  
 大西 忠典(4年) 実験検証でみるE V Aと株価との関連性  
 恵本和佳子(4年) E V Aを導入する日本企業  
 信田 啓輔(4年) 不動産における営業の情報化に関する考察  
 川畑 絵美(3年) ベンチャーキャピタルの日米比較と今後の方向性  
 梶原ゼミナール3年(代表・金庭宏明) 調剤市場の拡大とドラッグストアの戦略  
 近藤ゼミナール3年(代表・九里厚志) 居酒屋業界における成功モデルを探る  
 近藤ゼミナール3年(代表・西井麻実) iモードに見るシリーズCMの広告戦略-iモードの発売から浸透まで-

## 総評 研究部主任 齋藤一郎

平成12年度の学生懸賞論文には、43編の応募があり、1論文あたり2名の教官による審査と合同審査会の審議を経て、2等2編、3等2編、佳作10編を選定しました。審査では、主として①学術論文としての形式、②論文としてのオリジナリティ、③論理構成という三点から評価しました。残念ながら1等に該当する論文はありませんでしたが、入賞論文はいずれも、自ら立てた研究課題に鋭く切り込んだ力作揃いです。

今年度については、応募総数が例年になく多数におよんだことに加えて、①学部3年生の応募が18編、2年生の応募が4編と、卒業(修了)年次以外からのチャレンジが半数を占めたこと、②応募論文で取り上げられたテーマが、社会科学分野のみならず、人文科学あるいは環境科学等多岐に亘ったことが、特徴として挙げられます。当学生懸賞論文が学生諸君の研究意欲の喚起を目的としていることを鑑みると、こうした傾向は喜ばしいことと思います。来年度以降も、学生諸君の積極的な取り組みを期待しています。

しかし、その一方で、応募するうえで最低限求められる学術論文としての形式や、基本文献のサーベイが不十分な論文もいくつか散見されました。ややもすれば、お手軽な解説書の類や2次データに依存しがちですが、それぞれの学問分野でのオーソドックスな思考方法を踏まえて、小樽商科大学の学生としての見識に磨きをかけて欲しいと思います。残念ながら今年度の入賞を逃した学生諸君には、今年度の反省を踏まえた捲土重来を、また日頃からながしかの疑問を抱いている学生諸君には、来年度新たにチャレンジすることを期待します。

最後になりましたが、当学生懸賞論文を催すにあたって、例年多大なご支援を賜っている株式会社北洋銀行に対しまして、深く感謝致します。

## 4 CBC登録研究会案内 (平成12年12月～平成13年3月開催予定)

- 1 研究会名 北東アジア-サハリン研究会
- 2 開催日時 2001年2月19日 午後3時から
- 3 開催場所 小樽グランドホテル
- 4 テーマ 日韓経済セミナー「朝鮮半島の緊張緩和と日韓新時代」  
サブテーマ ① 21世紀の日韓経済協力—自由貿易協定と北海道経済  
② 韓国・北朝鮮の経済交流と北海道のビジネスチャンス
- 5 講演者 ① 鄭 求鉉 (韓国延世大学校商経大学経営学科教授・同大学校経営大学院長)  
② 鄭 甲泳 (韓国延世大学校商経大学経済学科教授・同大学校東西問題研究院長)
- 6 参加条件 電話・ファックスでのお問い合わせは、CBC事務局(電話0134-27-5290、ファックス0134-27-5293)へ。メールでのお問い合わせは、北東アジア-サハリン研究会事務局・關 (sekitomo@res.otaru-uc.ac.jp) まで。
- 7 参加費用 無料
- 8 その他 なし

## CBC主要日誌

CBC運営会議	主任会議
10月 4日(水) 報告事項： 1 CBC研究叢書について 2 外部予算の最終確認について 3 その他	10月19日 10月26日
11月 1日(水) 議 題： 1 ペンシルバニア・サイエンス・センターとの協定 について 2 共同研究先との特許出願について 3 その他 報告事項： 1 90周年記念シンポジウムの開催 2 その他	11月15日
12月13日(水) 議 題： 1 ビジネス創造センター長の辞任時期について 2 その他	12月 7日
1月17日(水) 議 題： 1 後援会助成事業のCBCからの推薦について 2 センター長の選任について 3 UCSCとCBCとの相互理解に関する 覚書について 報告事項： 1 日韓経済セミナーの開催について 2 ビジネスアイデアコンテストの開催について 3 CBC産学連携研究成果報告会について	
	2月 1日

## 投稿案内

ニュースレターはCBCに関する情報をタイムリーに開示するだけでなく、CBC関係者相互の情報交換の場でもあります。CBC関係各位の積極的な投稿をお待ちしています。

投稿、問い合わせはEメールにてお願いします。投稿は随時受け付けておりますが、投稿原稿の採否、掲載号の決定はCBC情報資料部に御一任ください。

○ 投稿先 小樽商科大学ビジネス創造センター情報資料部

Eメール： okuda@res.otaru-uc.ac.jp,

## 編集後記

平成12年度のニュースレターは当初3号まで発行する予定でしたが、諸般の事情により2号までになりました。平成13年度からは年4号を発行する予定にしています。定期的に発行できるようみなさまのご協力を賜りますようお願い致します。

(情報資料部)

小樽商科大学ビジネス創造センター (CBC)  
〒047-8501 小樽市緑3丁目5番21号  
事務室 TEL 0134-27-5290  
FAX 0134-27-5293  
メールアドレス cbc@office.otaru-uc.ac.jp  
ホームページ http://www.otaru-uc.ac.jp/cbc/